

私立大学研究ブランディング事業 令和元年度の進捗状況

学校法人番号	211003	学校法人名	華陽学園		
大学名	岐阜女子大学				
事業名	地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	1412人
参画組織	文化創造学部, デジタルアーカイブ研究所, 文化情報研究センター, 衣食住生活研究センター, 長寿健康栄養学センター				
事業概要	知識基盤社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し, 新たな知を創造するという本学独自の「知の増殖型サイクル」の手法により, 地域課題に実践的な解決方法を確立するために, 地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備をする。このことにより, 地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として, 地方創成イノベーションの実現と伝統文化産業の振興並びに観光資源の発掘を行う。				
①事業目的	<p>①本事業は, 地域に根差し地域社会に貢献する大学として, 本学独自で育ててきたデジタルアーカイブ研究を活用し, 地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって, 地域課題の実践的な解決や伝統的産業の活性化並びに新しい文化を創造できる人材育成を行い, 岐阜地域の知の拠点となる大学を目指すものである。</p> <p>②具体的には, 岐阜県が掲げる地方創成イノベーション計画に呼応し, 以下に示す地域の代表的な伝統文化産業と観光資源について, デジタルアーカイブ化とその利活用を行い, それぞれの振興と発掘を行う。地域と大学が緊密に連携してデジタルアーカイブ研究を推進し, 地域で新たな価値を創造できる人材の養成を行う。</p> <p>(1)飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝統文化産業の振興(飛騨地区)</p> <p>(2)郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと世界遺産登録への支援(美濃地区)</p> <p>③上記資源のデジタルアーカイブ研究では, リアルタイムに情報を更新する本学独自の「知の創造サイクル」を用いて地域課題の解決(図2)に取り組み, 人材養成に適したカリキュラムと教材テキストの開発を行う。</p>				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	<p>【実施目標】</p> <p>○郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブ(・文化的伝統の収集と調査・建造物、建築物群の歴史的な価値の調査・白山信仰の三馬場の調査)において「知の増殖型サイクル」を構成し, 世界遺産への登録を支援する。</p> <p>○また, 「知の増殖型サイクル」の企業への適応に関する開発研究並びに知の拠点としての大学デジタルアーカイブの活用(方法)の教材テキスト, これらを支える専門職のための人材養成のためのカリキュラム並びにテキストの開発を行う。</p> <p>【実施計画】</p> <p>①飛騨高山の匠の技のデジタルアーカイブを開発し, 「知の増殖型サイクル」を用いて, 今後の地域の活性化の基礎資料として活用に必要な情報を提供し, Webの作成や冊子作成を始め, 地域の活性化を図る。</p> <p>②地域の伝統の文化を英語などでデジタルアーカイブし, ホテルや店舗と連携することによりインバウンドによる新たな観光資源を発掘し, 地域の活性化を促す。</p> <p>【目標達成度】</p> <p>①飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの開発 (コンテンツ数100,000件以上目標)</p> <p>②郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの開発(コンテンツ数50,000件以上目標)</p> <p>③地域資源のデータベースによる「知の増殖型サイクル」の実証事例の調査(全国10か所の調査)</p> <p>④本学の大学デジタルアーカイブの活用度(Webページの閲覧数 50,000件/年以上)</p> <p>⑤本学のブランドの浸透度(在校生アンケート調査)(現在1.8% →50%)</p> <p>⑥テキストの開発率 30%</p>				

<p>③令和元年度の事業成果</p>	<p>【実施目標1】 ○飛騨高山匠の技デジタルアーカイブに加えて新たに郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブを開発するために、伝統的な生活・文化の資料を広く収集し、デジタルアーカイブ化を進め、「知の増殖型サイクル」を構成し、地域資源デジタルアーカイブに必要な情報の推進を図る。</p> <p>【具体的施策1】 ①飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの構築(2017.4-現在) ・コンテンツ数:79,166点(2月末現在)/100,000点(2019年度達成目標) :達成度 79%</p> <p>②郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの構築(2018.4-現在) ・コンテンツ数:72,025点(2月末現在)/50,000点(2019年度達成目標) :達成度 144%</p> <p>②2020.2.11:私立大学研究ブランディング事業報告会～デジタルアーカイブin 岐阜～を開催(175名参加) ③2019.12.12-2020.2.11:高校生のためのデジタルアーカイブクリエイター資格取得講座開催(郡上・岐阜)</p> <p>【実施目標2】 ○本年度は、主に大学デジタルアーカイブの機能として、本学の教育資料等の有機的な総合保管関連システムの開発研究を行い、これらを支える専門職のための人材養成のためのカリキュラム並びにテキストの開発を行う。</p> <p>【具体的施策2】 本年度は以下の特別企画事業を実施し、人材養成の講座などで活用した。</p> <p>① 昭和・平成を駆け抜けた～報道記事から見る岐阜の偉人たちの素顔～ 代表 三宅 茜巳教授</p> <p>② 岐阜市における地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成 代表 谷 里佐教授</p> <p>③ 「デジタルアーカイブの利活用の課題 ～ デジタルコンテンツの提示・提供、課題解決、知的創造へ～」 代表 加治工 尚子准教授</p> <p>④ 各務原市空き家リノベーション事業 代表 黒見 敏文教授</p> <p>⑤ 学修支援資料デジタルアーカイブの共有化および成果の公開と評価に関する研究 代表 横山 隆光教授</p>
<p>④令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) ①デジタルアーカイブを実施していくためには、各機関の連携が重要である。本年度においては、岐阜市と連携の包括協定を締結し、多元的なデジタルアーカイブの構築が可能になった。 ②本学の各専攻から特別企画を提案していただき、大学全体でデジタルアーカイブ事業を展開した。</p> <p>(外部評価) ○地域文化を活性化させる大学の役割の一端として、今回事業は地域を活性化するという観点では、重要な役割を担い、成果が出ていると思う。 ○アーカイブで地域の事が目にみえる形になるのは、とても良い試みだと思うので、教育の現場等、色々な場で発信されると良いと思います。 ○研究の経過を教育に生かすことが、非常に大事だと思います。学生について、学習者本位の教育を考えたとき、課題解決型の学習の中に学生の充足感が出てくると考えられ、教育改革のための研究ではありませんが、今回の内容ややり方を教育に生かすことで学生の充足感も得られると思います。 ○再開発やリノベーションで、今のどんだん街の姿が変わろうとしております。地域の中に沢山残していくべき素材があることを実感しましたので、是非今後ともデジタルアーカイブをしていただけるとありがたいと思います。</p>
<p>⑤令和元年度の補助金の使用状況</p>	<p>①郡上と沖縄での報告会のための講師謝金・旅費 ②チラシ・冊子印刷費(特別企画の報告書) ③モデル調査のための旅費・消耗品費 ④デジタルアーカイブ撮影編集機器の整備 ⑤教材作成費(テキスト並びにDVD)⑥報告会会場使用料 ⑦講師依頼旅費・消耗品費 ⑧飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ並びに郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの構築費用(Web.撮影旅費) ⑨郡上白山文化遺産デジタルアーカイブに調査旅費 他</p>